

第一回陸路賞受賞作品自選二十句

翡翠の瞳

吉川 孝子

大観峰ここも火の縁鳥兜
草すべりてふ北岳の花野ゆく
非常口に門掛ける虫の夜
見え隠れして水引草の泥の川
サッカー男子肋を見せて獵期くる
球場灯檣円に震ふ寒の入り

好きな山歩きに体力的な限界を感じ始めた頃、出会ったのが俳句でした。

歳時記が五つのパートから成ること、切れも余韻も何とも……、程度の初心者でした。縁あって城山句会に参加し、そこで初めて中村和弘先生のご教示を仰ぎました。先生や仲間への選句に一喜一憂しながらも、作句の楽しさに引き込まれて行きました。程なくして先生の勧めで東京句会へ参加し、陸への投句も

ドアマンはカポネに似たりクリスマス
警官は休めの姿勢寒の月
御神渡りガレの花瓶に創のあり
回覧は鋏を休めとお中日
蠹やかかの匈奴より鉄の匙
連結器巨人の拳めき虻とべり
朱夏に来て絨毯売りの翡翠の瞳
リラ冷えの厩の藁の厚きかな
淡竹の子藪に先住の獣臭
出水後の丹塗りの橋の寝かさるる
鉄鍋に多喜二の死ぬくはじき豆
美山には暴れ川あり稲の花
母衣蚊帳の妹をうかがふ瞳の四つ
綺羅戻る球磨川べりの門火かな

始めました。ちょうど
5年前のことです。東
京句会参加の初めての
日「地下ホームマント
の僧の仁王立ち」を特
選に取っていただき、
緊張でこちこちだった
肩の力みがスーツと抜
けていくのを感じまし
た。今回身に余る賞を
いただき戸惑いもあり
ますが、激励の「期待
賞」だと理解し励み
にして参るつもりです。
『五感を働かせ、語り
過ぎず、映像を詠む』
との先生のお言葉を心
に置き、これからも精
進していききたいと思
います。
ありがとうございました。